

「親密だから見えないこと

—『羅生門的現実』を生きる—

第9回 11/14(土)『ゆるる』 対談：齋藤真緒 × 神谷雅子
(産業社会学部准教授)

第10回 12/19(土)『トウキョウソナタ』 対談：望月昭 × 中村正
(文学部・応用人間科学研究科教授)



会場：立命館朱雀キャンパス 5F 大講義室 (ホール)

参加費：¥800 立命館大学教職員・学生 京都シネマ会員 ¥500

時間：13:00 開場 13:30 開演 (16:30 終了予定)

当日 13:00 よりチケットの販売を開始します (事前の受付及び整理券の配布はございません)

* 駐車場・駐輪場がございませんので、ご来場には公共交通機関をご利用下さい。

* 満席の場合ご入場を制限させていただくこともございますのでご了承ください。



「親密だから見えないこと —『羅生門的現実』を生きる—」 の開催にあたって

「シネマで学ぶ人間と社会」という統一テーマのもと、フィルムアートに表象された「関係性の様態」の解読をとおして現代社会の不安と希望を照らし出したいと思っています。2008年度には、家族を主題にした秀逸な日本映画をとりあげ、家族的不安の諸相とそこからの再生をテーマに、シリーズ1「家族の現在」を開催しました。2009年度の春には、裁判員制度が発足したこともあり、シリーズ2「『裁き』のそのあとで—加害といかに向き合うか」を開催しました。

そして今回のシリーズ3です。テーマは、恋人や家族という関係にある者たちが持つ「秘密」です。そこから生起する策略と戦略、配慮と隠蔽、接近と遠隔という人間関係の織りなす層の厚さを考えます。相互に親しいと思っている者同士の他者性と現実の複数性を扱った映画を取りあげます。題して、「親密だから見えないこと—『羅生門的現実』を生きる—」です。黒澤明監督の作品に由来し、英語になっている「羅生門的現実」という言葉が手ごかりです。臨床人間学や人間科学の観点から読み解く対談もおこない、人間と社会の今後にとってのアートの持つ創造性・触感性・破壊性等を考えていきたいと思っています。

大学の研究所が実施するこの企画映画会は、映画を活用した「シネマエデュケーション」（シネエデュ）の試みです。結論のない対話を楽しむ「道楽」としての、学問の本来の意味の追求です。



(C) 2006『ゆれる』製作委員会

11月14日(土)

ゆれる

2006/日本/119分/アスミック・エース

監督：西川美和

出演：オダギリジョー、香川照之、真木よう子 ほか

【ストーリー】写真家の猛は、母の一周忌で帰郷した。父と折り合いの悪い彼だが、温和な兄・稔とは良好な関係を保っている。翌日、猛は稔、そして幼馴染の智恵子と溪谷へと向かった。智恵子が見せる「一緒に東京へ行きたい」という態度をはぐらかして、一人で自然へカメラを向ける猛。そんな彼がふと吊橋を見上げた時、橋の上にもめている様子の稔と智恵子がいた。そして次の瞬間、そこには谷底へ落ちた智恵子に混乱する稔の姿だけがあった…。『蛇イチゴ』の西川美和監督による、重厚なドラマ。

・斎藤真緒(さいとうまお)…産業社会学部・社会学研究科准教授。専門は、家族社会学。主な著作『男性介護者白書—家族介護者支援への提言』(かもがわ出版)、『テキストとコンテキスト』(晃洋書房)など。

・神谷雅子(かみやまさこ)…産業社会学部教授。映画産業論などを講義。80年代後半から「京都朝日シネマ」の運営に携わり90年、同館支配人に。閉館後、04年12月に新しいアート系映画館「京都シネマ」(四条烏丸下る)を代表としてオープン。著書に『映画館ほど素敵な商売はない』。



斎藤真緒 × 神谷雅子



(C)2008 Fortissimo Films/「TOKYO SONATA」製作委員会

12月19日(土)

トウキョウソナタ

2008/日本/119分/ピククス

監督：黒澤清

出演：香川照之、小泉今日子、役所広司 ほか

【ストーリー】健康機器メーカー、総務課長として働く佐々木竜平は、人事部に呼び出され、リストラを宣告される。突然の出来事に、呆然としたまま帰宅するが妻、恵にリストラされたことを言い出せなかった。夕食時、小学校6年生で次男の健二はピアノを習いたいと言い出す。翌日から、会社に行くフリをして、毎日ハローワークへ通っていた。ある日、大学生の長男・貴が、世界平和のためにアメリカの軍隊に入りたいと言い出す…。

・望月昭(もちづきあきら)…文学部・応用人間科学研究科教授。立命館大学人間科学研究所所長。専門は、応用行動分析学、対人援助学。主な著作『「対人援助学」キーワード集』(編著、晃洋書房)、『対人援助の心理学』(編著、朝倉書店)など。

・中村正(なかむらただし)…産業社会学部・応用人間科学研究科教授。専攻は、臨床社会学・社会病理学。男性学。主な著作『家族のゆくえ』(人文書院)、『「男らしさ」からの自由』(かもがわ出版)、『ドメスティックバイオレンスと家族の病理』(作品社)など。



望月昭 × 中村正



本企画は、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチ・センター整備事業「臨床人間科学の構築—対人援助のための人間環境研究」プロジェクトとグローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点の研究成果として広く社会に発信するものです。

お問い合わせ先：立命館大学人間科学研究所 事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

TEL：075-465-8358 FAX：075-465-8342

E-mail：ningen@st.ritsumeai.ac.jp

URL：http://www.ritsumeihuman.com/

主催：立命館大学人間科学研究所

立命館大学生存学研究センター

共催：京都シネマ

協賛：株式会社オリエントコーポレーション

協力：アスミック・エース、エンジンフィルム、ピククス